

85 「最近好きな曲」

ユーチューブで音楽を聴いている。聴くのはラテン系の曲が多く、クラシック音楽もよく聴く方だ。最も好きなのはフラメンコで、有名アーティストから無名人まで思う存分聴くことができる。

20代の初めころから「中南米音楽」という月刊誌をずっと読んでいた。何年も購読していたので、ダンボール何箱分も溜まってしまった。捨てることができず、ずっと庭の倉庫に保管していたが、ただ取って置くだけで、思うように見ることができない状態で仕方なく処分した。

「中南米音楽」は、中南米諸国やカリブ海諸国の伝統音楽や最新音楽、民族音楽など幅広く、情報が豊富で毎月読むのが楽しみだった。その中にフラメンコも取り上げられていて、貴重な情報源で隔々まで読んだ。勿論当時はインターネットなどなく、ごく限られた情報しかなかった時代である。

中南米音楽はその後LATINA（ラティーナ）に変わり、少しブラジル色が強まったように感じた。ラテン音楽からフラメンコに重心が移ってからは、フラメンコの専門誌「フラメンコの世界」を愛読した。同誌はその後、PASEO（パセオ）に変わり、装丁が立派になり写真もとても美しくなった。

パセオは10年以上定期購読していたが、インターネットで自由に情報が得られるようになったこともあり購読をやめた。パセオはまだ家の書棚にぎっしり並べられている。

古いファイルを見ていたら、たまたまコピーを残していた「中南米音楽」1975年11月号の記事で『O氏 ソ連の旅』というのがあった。このO氏は、元 有馬徹とノーチェ・クバーナでヴォーカルとギターを担当していた人である。ソ連はノーチェ・クバーナのメンバーとして一度訪れたことがあり、この記事は75年に東京キューバン・ボーイズの訪ソに特別参加した時の経験を書いたものだ。勿論、私はこの時点でO氏とは一面識もない。

O氏は福岡市在住で、私が1982年に九州支店（福岡）に転勤した2年後1984年に、偶然知り合うことになった。きっかけは、O氏が西日本新聞にメンバー募集記事を投稿したことだ。

「ラテン系音楽のグループを作りたいので興味のある人募集、、、」といった内容の記事だったと思う。

その記事を見て集まったのは私を含めて5名、メンバーの希望でフォルクローレ（南米の民族音楽）をやることになった。私は、フラメンコというわけにはいかないの、ポピュラーなラテン音楽希望だったが、たまたまフォルクローレが好きな人が多かったのだ。ケーナ／サンポーニャ、チャランゴ、ギター各1名、ヴォーカル2名の編成で、指導はプロであるO氏がしてくれる。

月1回集まって練習を重ね、何回かステージで演奏したことがある。勿論無料。最も記憶に残っているのは、壱岐「ふるさと村」主催のフェスティバルに呼ばれて演奏したことだ。今、思い出すととても懐かしい。帰りに壱岐の観光ができた。

最近ユーチューブができてからは、ジャンルに関わらずどんな曲も自由に聴くことができ、その頃に比べると音楽好きにとっては夢のようだ。机に向かっている時など、ずっと流し続けていることも多く、時々いいなあと思う曲がある。

好きなのはキューバ音楽、ブラジル音楽、それとアルゼンチンやチリの音楽もいい。キューバの人々は根っから陽気で、曲も明るいものが多い。しかし、中にはマイナーキーの曲がありメロディーがとてもいい。1997年キューバの旅で初めて知った、ポロ・モンタニェスは素晴らしいメロディー・メー

カーだと思ふ。ハバナは街のいたる所で楽器を奏で歌い、その周りを多くの人を取り囲み、中には勝手に体が動くという感じで踊る人がある。演奏も歌も踊りもレベルが高くノリノリ、多くの人々が心から音楽を楽しんでいるといった雰囲気だ。女性だけのグループも多い。

キューバはリズムの宝庫で「ルンバ」、「マンボ」、「チャチャチャ」そして“サルサ”の原型となった「ソン」など、多くのラテン系リズムがキューバで生まれた。

とてもいいなあと思ったのは“Idilio : イディリオ”というサルサの曲、作曲はニューヨーク生まれのプエルトリカン『ウイリー・コロソ』である。彼はトロンボーン奏者なので、曲の出だしはトロンボーンのソロで始まる。このトロンボーンがとてもカッコいい。私は Leoni Torres (レオニ・トーレス) の歌が気に入っている。

Idilio



01 Idilio Leoni Torres.MP3

キューバ独特の、ギターのような形をした“トレス”という楽器がある。ピックで弾く3組の複弦楽器で、キューバ音楽には欠かせない楽器だ。このトレスで弾くイディリオもとてもいい。演奏は Santiago Jimenez / サンチアゴ・ヒメネスというトレスの名手。



トレス

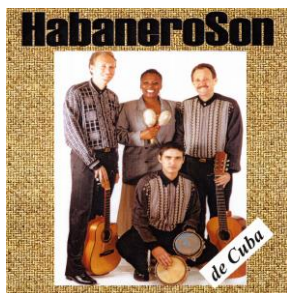
Idilio



02 Idilio Santiago Jimenez.MP3

ハバナで手に入れた1枚のアングラCDがある。街中の多くのセミプログループの1つで、グループ名「Habenero Son」アバネーロ・ソン (ボーカル, トレス, ギター, コンガの4人組) である。

トレス奏者はサウスポーで、眼前で観るそのテクニックが素晴らしく、演奏中ずっと楽器と指の動きに見惚れていた。そのCDの中の一曲。



De Que Callada Manera : デ・ケ・カジャダ・マナーラ
(下の wma をクリック)



De Que Callada Manera.wma

なお、ベネズエラにはトレスに似た形のクアトロという楽器がある。クアトロは“4”という意味で、こちらは4組の単弦、ピックでなく指で弾くので音色は少し異なる。

ブラジル音楽といえばサンバやボサノバが有名。でも、私はポルトガルのファドで使われる、ポルトガル・マンドリンが奏でる“ショーロ”という音楽が気に入っている。

ショーロはポルトガル語の chorar (ショラール : 泣く) が語源で、センチメンタルなメロディーに特

徴がある。ショーロはバンドリン（ポルトガル・マンドリン）、ギター、フルート、カヴァキーニョ（ウクレレに似た4弦楽器）、パンデイロ（タンバリンのような打楽器）といった楽器で演奏される。フルートの代わりにクラリネットやサクソホンを加えたり、編成は比較的自由である。歌が入ることは少ない。



バンドリン



カバキーニョ

私が気に入っているショーロの曲の中から3曲紹介したい。

- ① Cochichando : コチチャンド / Pixinguinha : ピシンギーニャ作曲、演奏は Clube do Choro de Avaré : アヴァレ・ショーロ・クラブ
 普段着のおじさんバンドだけれど、腕前はプロとっていい。
 曲名のコチチャンドは、“ささやきながら”といった意味である。

[Cochichando](#)



04

Cochichando.MP3

- ② Murmurando : ムルムランド / Mario Rossi, FonFon : マリオ・ロッシ、フォンフォン作曲
 演奏は Nilze Carvalho : ニルセ・カルバーリョ
 曲名のムルムランドは“つぶやきながら”といった意味である。

[Murmurando](#)



05 Murmurando
 Nilze Carvalho.MF

ムルムランドは次のようなフルートがメインとなった演奏もある。

演奏は Época de Ouro : エポカ・デ・オウロ

[Murmurando](#)



06 Murmurando
 Época de Ouro.MF

- ③ Tempo de criança : テンポ・ジ・クリアンサ / Dilermando Reis : ディレルマン・ド・レイス作曲
 演奏は Marcos Kaiser, Penezzi : マルコス・カイザー、ペネッシ
 曲名のテンポ・ジ・クリアンサは“子供の時間”といった意味である。

ブラジルのギタリストの多くは7弦ギターを愛用しているようだ。通常ギターは6弦で、最も低音の弦（一番上の弦）はE音（ミの音）であるが、D調の曲を弾く時など、その弦を緩め一度下げてDに調律することが多い。ところが弾いている途中で音が戻り、ほんのわずかだが音が高くなってきて弾きながら気になってしまう。そんな悩みを解決したのが7弦ギターで、7番目の弦はD音に調律されていると思う。マルコス・カイザーとペネッシの二重奏は、息もつかせぬ演奏で素晴らしい。

[Tempo de criança](#)



07 Tempo de
 criança.MP3

アルゼンチンの音楽も紹介しておきたい。

アルゼンチン音楽は、国土の広ささながらに非常に幅広い。最も有名なのはタンゴ、そしてfolkloreだろう。あまり的確とは言えないかも知れないが、タンゴは都会の音楽、folkloreは田舎の音楽という感じ。今ではタンゴ界超有名人の一人「アストール・ピアソラ」も昔はタンゴ界の異端児と呼ばれていた。伝統的なスタイルに拘らない曲作りで、タンゴの世界に新風を吹き込んだバンドネオン奏者である。最も有名なのは **Libertango** : リベルタンゴだ。

そのピアソラ作曲の“**Oblivion** : オブリビオン／忘却”という曲がとてもいい。映画の挿入曲として作曲されたもので、とても古い曲。

たまたま、ウクライナ出身のギタリスト **Nadja Kossinskaja**／ナディア・コシンスカヤのギター独奏で知ったのだが、ピアソラの曲だった。

[Oblivion](#)



08 Oblivion Nadja
Kossinskaja.MP3

私は最近まで知らなかったが、とても有名な曲で多くの演奏家に取り上げている。演奏スタイルは、オーケストラをバックにフルート、オーボエ、クラリネットなどの木管・金管楽器によるもの、バイオリン、チェロなどの弦楽器によるもののほか、独奏や重奏など非常に多い。その中で、演奏として私が好きなのは **Stjepan Hauser**／ステファン・ハウザーというクロアチア出身のチェロ奏者の演奏である。

[Oblivion](#)



09 Oblivion
Stjepan Hauser.M

切なく物憂いメロディーが心に残り、ハーモニーの動きがとても魅力的だ。特に弦楽器の演奏では、小節の切れ目の、弦と弓の微妙な擦れ音が何とも言えずいい。

アルゼンチンのfolkloreにはいろいろなリズムがある。サンバ、クエッカ、チャカレーラなどが有名で、ほとんど踊りを伴う。アルゼンチンのサンバは **Zamba** と書き、ブラジルのサンバ **Samba** と区別するため“**Zサンバ**”と呼んだりしている。

Zamba の歌手として好きなのは、アルゼンチン出身の **Tamara Castro**／タマラ・カストロだ。

聴いて欲しいのは“**Zamba de amor en vuelo**／サンバ・デ・アモール・エン・ブエロ”というサンバの曲。しっとり聴けて気に入っている。

[Zamba de amor en vuelo](#)



10 Zamba de
amor en vuelo.MF

とても惹かれる歌手だったが、大変残念なことに2006年12月フェスティバルに出演した帰り、交通事故で33歳の若さで亡くなってしまった。

勝手に自分の気に入っている曲をあげてみたが、機会があればぜひ一度聴いてみてもらえれば嬉しい。

(2020.05.10)